

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島国際大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省 令 で 定 め る 基 準 単 位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
保健医療学部	1-①-1 診療放射線学科 (2024～2026年度)	—	3	0	15	18	13	
	1-①-2 診療放射線学科 (2023年度)	—	3	0	15	18	13	
	1-②-1 医療技術学科 臨床工学専攻 (2024～2026年度)	—	3	0	20	23	14	
	1-②-2 医療技術学科 臨床工学専攻 (2023年度)	—	3	0	20	23	14	
	1-③-1 医療技術学科 臨床検査学専攻 (2024～2026年度)	—	3	0	18	21	14	
	1-③-2 医療技術学科 臨床検査学専攻 (2023年度)	—	3	0	18	21	14	
	1-④-1 救急救命学科 (2025～2026年度)	—	3	0	18	21	14	
	1-④-2 救急救命学科 (2024年度)	—	3	0	18	21	13	

	1－④－3 救急救命学科 (2023 年度)	－	3	0	18	21	13	
総合リハビリ テーション学 部	2－①－1 リハビリテーション 学科 理学療法学専攻 (2024～2026 年度)	－	3	0	20	23	13	
	2－①－2 リハビリテーション 学科 理学療法学専攻 (2023 年度)	－	3	0	20	23	13	
	2－②－1 リハビリテーション 学科 作業療法学専攻 (2024～2026 年度)	－	3	0	18	21	13	
	2－②－2 リハビリテーション 学科 作業療法学専攻 (2023 年度)	－	3	0	18	21	13	
	2－③－1 リハビリテーション 学科 言語聴覚療法学専攻 (2025～2026 年度)		3	0	20	23	13	
	2－③－2 リハビリテーション 学科 言語聴覚療法学専攻 (2024 年度)	－	3	0	20	23	13	
	2－③－3 リハビリテーション 学科 言語聴覚療法学専攻 (2023 年度)	－	3	0	20	23	13	
	2－④－1 リハビリテーション 学科 義肢装具学専攻 (2024～2026 年度)	－	3	0	19	22	13	
	2－④－2 リハビリテーション 学科 義肢装具学専攻 (2023 年度)	－	3	0	16	19	13	

看護学部	3－① 看護学科 (2024～2026 年度)	－	3	0	23	26	13	
	3－② 看護学科 (2023 年度)	－	2	0	23	25	13	
薬学部	4－① 薬学科 (2024～2026 年度)	－	3	0	25	28	19	
	4－② 薬学科 (2021～2023 年度)	－	2	0	42	44	19	
健康科学部	5－①－1 心理学科 (2024～2026 年度)	－	3	0	17	20	13	
	5－①－2 心理学科 (2023 年度)	－	3	0	17	20	13	
	5－②－1 医療栄養学科 (2024～2026 年度)	－	3	0	17	20	13	
	5－②－2 医療栄養学科 (2023 年度)	－	2	0	19	21	13	
	5－③－1 医療経営学科 (2024～2026 年度)	－	3	0	16	19	13	
	5－③－2 医療経営学科 (2023 年度)	－	3	0	16	19	13	
	5－④ 医療福祉学科 3 専攻 (2024 年度学生募集 停止) (2023 年度)	－	6	0	14	20	13	
	5－⑤ 社会学科 社会福祉学専攻 (2024 年度設置) (2024～2026 年度)	－	3	0	15	18	13	
	5－⑥ 社会学科 地域創生学専攻 (2024 年度設置) (2024～2026 年度)	－	3	0	14	17	13	
健康スポーツ 学部	6－①－1 健康スポーツ学科 (2024～2026 年度)	－	4	0	18	22	13	

	6－①－2 健康スポーツ学科 (2023 年度)	－	4	0	18	22	13	
(備考) ・新課程と旧課程がある学科については、学科名欄に学則対象年度を記載し、それぞれ、行を分けて記載する。また、新課程については、完成年度までの設置計画に基づいて記載し、旧課程については、従前の教育課程に基づいて記載する								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ

<https://www.hirokoku-u.ac.jp/student/course/syllabus.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島国際大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	: https://www.josho.ac.jp/introduction/officer.html 1 ページ参照
--------	--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	[現職] 株式会社最高顧問	2024年7月20日～ 2026年7月19日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	[前職] 市役所職員（部長職）	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 株式会社顧問	2024年7月20日～ 2026年7月19日	労務担当、 組織運営体制への チェック機能
非常勤	[現職] 株式会社代表取締役	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 株式会社社会社員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 市議会議員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島国際大学
設置者名	学校法人常翔学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を毎年授業担当教員が作成し、第三者(学科長等)による内容確認の上、3月末日に次年度のシラバスを大学のホームページに公表している。学生へは履修ガイダンスにて周知している。	
授業計画書の公表方法	大学ホームページ(電子シラバス) https://www.hirokoku-u.ac.jp/student/course/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における到達目標やその目標を達成するための授業の内容、計画等を明示したうえで、客観的な成績評価基準を提示し、これに基づき厳格な成績評価を行っている。成績評価方法として、GPA制度を導入するとともに、思い描いた未来と今の学びの関連性を整理し、自ら必要な学びを検討するためのサポートシステムとして「学修成果可視化システム(アセスメンター)」を活用している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価において、GPAによる客観的な指標を設定し、年度初めに学生に配付する履修申請要領に掲載するとともに、ホームページ上にも同内容を掲載している。学生・保護者が客観的に成績を確認できるよう期ごとにGPAの分布表を作成し、ホームページに掲載している。また、低年次でGPAの数値が低い学生については、各学科にてアカデミックアドバイザーによる面談を行い、修学状況、意欲等の面談を行い、指導している。	
算出方法は次のとおり。 $GPA = \frac{(4 \times \text{成績Sの修得単位数}) + (3 \times \text{成績Aの修得単位数}) + (2 \times \text{成績Bの修得単位数}) + (1 \times \text{成績Cの修得単位数}) + (0 \times \text{成績Dの修得単位数}) + (0 \times \text{成績Eの修得単位数})}{\text{履修登録科目の総単位数(成績が「D、E、*」の科目の単位数も含む)}}$	
ただし、GPAの対象としない授業科目はつぎのとおり。 ・卒業要件に含まれない科目 ・「認」、「G」、「F」で表示された科目 ・その他、学部によって定める科目 ※D評価を下回る成績で再履修した場合は、最新の成績評価のみ計算対象となる	

客観的な指標の 算出方法の公表方法	大学ホームページ（履修申請要領） https://www.hirokoku- u.ac.jp/student/course/course_application.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） すべての学部において学生に学位を授与するに当たり、学生が卒業までに修得すべき資質や能力を含めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めており、ホームページにて公表している。具体的な認定については、教授会にて修得単位数を基に卒業判定を行っている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	広島国際大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ https://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html
収支計算書又は損益計算書	〃
財産目録	〃
事業報告書	〃
監事による監査報告(書)	〃

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/valuation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保健医療学部 診療放射線学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 診療放射線学科は、急速に高度化、専門化する放射線診療に対応でき、さらに新しい医用技術の開発にも参画できる信頼される医療人としての診療放射線技師を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 診療放射線技師としての強い使命感と責任感を持つとともに、豊かな人間性と高い倫理観を身につける。 2) 専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、医療現場で活躍できる。 3) 医療現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。 4) 医療人として地域社会のさまざまな問題について、専門的な立場から適切な情報提供と対応ができる。 5) スペシャリストとして常に高度専門技術の向上に努め、研修・研鑽を行う意欲を持つ。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 診療放射線学科の教育研究上の目的は急速に高度化・専門化する放射線診療に対応でき、さらに、人間性を尊重し、心豊かな医療人としてチーム医療で活躍できる診療放射線技師を育成することです。この目的を達成するために次のようにカリキュラムを編成します。 1) 病む人の気持ちを理解し、様々な職種の人たちとチームとして診療に関わるための意識を身につけます。そのために必要なコミュニケーションスキルや様々な立場の人たちとの接し方も、日々の学修、アクティブラーニング、実習・演習などを通して身につけます。 2) チーム医療の現場に必要な医学的知識、放射線診療に必要な知識とスキルを身につけます。さらに、日々の学修の中で自ら課題を見つけ出し、他の人と協働してその解決を図る習慣を身につけます。 3) 進歩する医療を提供するために、最新の医療技術を確実にキャッチアップするための知識・スキルを身につけます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉 https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1 、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈 https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1 〉）
（概要） 診療放射線学科は、放射線を用いた診断および治療に関する専門的な知識と技術を修得し、医療チームの一員として人々の健康の維持・回復に貢献するとともに、人々や地域のウェルビーイングの向上に寄与できる診療放射線技師の育成を目的としています。 そのため本学科では、診療放射線領域の高度な診断・治療技術を修得し、思いやりと協調性をもってチーム医療の現場で活躍しようとする意欲を有する人を求めます。 1) 総合型選抜

- 志望理由書、小論文、面接等を通じて、診療放射線技術分野に対する関心や学修意欲、主体的に学び続けようとする姿勢、他者と協働して医療に貢献しようとする意欲等を多面的・総合的に評価・判定します。 - また、入学前に修得していることが望まれる知識・能力として、基礎的な数的処理能力および自然科学に関する基礎的理解、文章を読み取り自分の考えを論理的に表現する力、他者を尊重し協調してコミュニケーションをとる力を有しているかを確認します。
2) 学校推薦型選抜
- 調査書、推薦書、志望理由書、面接等を通じて、高等学校における学修への取り組み状況や学校生活で培われた主体性、協調性、責任感等を総合的に評価・判定します。 - また、入学前に修得していることが望まれる知識・能力として、基礎的な数的処理能力および自然科学に関する基礎的理解、文章を読み取り自分の考えを論理的に表現する力、他者を尊重し協調してコミュニケーションをとる力を有しているかを確認します。
3) 一般選抜
基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。
〔附記〕
社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 保健医療学部 医療技術学科 臨床工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 医療技術学科は、日々進歩し続ける臨床工学・臨床検査学の各領域における医療機器や医療技術の変化に対応できる能力と医療チームに貢献する幅広い知識・豊かな人間性を持つ人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） - 臨床工学技士としての高い志を持ち、医療を担うにふさわしい倫理観や人間性を備え、患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供することができる。 - 医学と工学にわたる基礎分野、ならびに専門となる臨床工学の知識・技術を学修し、今後の医療技術の進展に対し専門性の更なる向上に主体的に取り組むことができる。 - 高い協調性を備え、医療チームの協働・連携者として、患者さんの問題解決に参画するとともに患者の利益を追求することができる。 - 国際的視点と学術的視点を合わせ持ち、臨床工学分野の新たな価値や技術の創意・工夫により、より良い医療の提供に研鑽し続けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）

(概要) 教育研究上の目的は、医療を担える人間性を備え、人の役に立とうとする高い志を持ち、日々進歩する臨床工学を学び研究し続けながら、医療機器の技術と管理のスペシャリストである臨床工学技士を養成することです。この目的を達成するために必要なカリキュラムを編成します。 1) 早期体験演習や専門職連携教育を通じて医療職や臨床工学技士の役割を体験的に理解し、自己のキャリア意識を形成するとともに、患者さんに接する基本的な態度、医療スタッフとのチーム医療に必要なコミュニケーション力を身につけます。 2) 医療機器の基礎となる領域は、医学と工学に及びます。医学として人体の構造や機能、臨床医学、また工学として電気や機械、情報や材料など、幅広い領域を体系的に学びます。 3) 専門とする医療機器の臨床応用においては、患者さんの呼吸や循環、代謝機能を人工的にサポートする生命維持管理装置の操作、保守点検について、講義による基本的な理論の他、学内でのシミュレーション実習、病院の手術室や集中治療室、透析室や ME センターでの実習を交えて体験的に学びます。 4) 4 年次の臨床工学総合演習では医療機器の有効性や安全性評価の視点を養い、卒業研究では未知の課題に対する解決の手法を学びます。また 4 年間を通じて、医療で活躍できるトータルな人材育成を目的に、教養科目の他、各学年における各種資格対策講座や国家試験対策、キャリア支援の科目を配置します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
(概要) 医療技術学科臨床工学専攻は、医療機器を扱う専門性を修得し、その能力を人々のために活かしながら自分自身もより良く生きていこうと願う人を求めます。医療に携わる者として人に思いやりを持って接し、他者と協力して役割を果たそうとする姿勢、医学や科学、医療機器への興味関心、目標を持って粘り強く学び続けられる皆さんをお待ちしています。 1) 総合型選抜 - 臨床工学専攻では、面接、志望理由書や小論文、基礎学力確認を通じて、志望理由や学問への意欲、主体性・探究心・自主的な活動等を総合的に評価し、入学後の主体的な行動や成長可能性を重視して選抜します。具体的に面接では、臨床工学技士を志望する理由の明確さや意欲、医療職や本学との適合性、これまでの活動経験、志望理由書や小論文では、論理的思考力や表現力、医療への関心の深さ等の評価を行い、また基礎学力確認では専攻で学ぶための基礎力の確認を行います。 2) 学校推薦型選抜 - 臨床工学専攻では、調査書、基礎素養検査、面接等を通して、高等学校までの学修成果と人物像を総合的に判定し、大学教育を受ける基礎的な学力や学修習慣が身についているかを重視して選抜します。具体的に調査書では、これまでの学修態度や学校生活の活動における努力や成果、基礎素養検査では、基礎レベルの素養や臨床工学技士に必要な思考力や表現力、面接では臨床工学技士を目指す志望動機の明確さや医療人としての適性、学修意欲等の評価を行います。 3) 一般選抜 - 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。 〔附記〕 - 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 保健医療学部 医療技術学科 臨床検査学専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）

(概要) 医療技術学科は、日々進歩し続ける臨床工学・臨床検査学の各領域における医療機器や医療技術の変化に対応できる能力と医療チームに貢献する幅広い知識・豊かな人間性を持つ人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/）
(概要) 1) 臨床検査技師としての強い使命感と責任感を持つとともに、他人を思いやる心と医療人としての高い倫理観を身につける。 2) 専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、医療現場で活躍できる。 3) 医療現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。 4) 専門知識とともに幅広い教養を身につけ、俯瞰的な立場から適切な情報提供と対応ができる。 5) 臨床検査のスペシャリストとして常に高度専門技術の向上に努め、研修・研鑽を行う意欲を持つ。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/）
(概要) 教育研究上の目的は、急速に高度化・専門化する臨床検査領域に対応でき、さらに、人間性を尊重し、心豊かな医療人としてチーム医療で活躍できる臨床検査技師を育成することです。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成します。 1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、臨床検査技師としての倫理観および職業観を養い、高いモチベーションで学び続ける姿勢およびチーム医療に必要な協調性とコミュニケーション力を育みます。オプション科目では個々の豊かな人間性と多様な教養を身につけ、広い視野をもった社会人となるよう取り組みます。また、少人数教育であるチュートリアルでは、様々なテーマにつき問題提起、調査、討論などを行ない、自ら学ぶ姿勢を育むとともに、親密な人間関係を構築します。 2) 初年次から2年次にかけて学ぶ専門基礎科目を通じて、臨床検査技師に必要な人体構造学、生化学などの基礎医学を学び、2年次以降の専門科目では、病理組織細胞学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学、臨床生理学などの専門知識と検査技術を修得していきます。さらに、4年次の臨地実習を通して実践能力、命の尊厳を基とした医療人としての人間性を育みます。 3) 4年間の学修の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な、問題解決力、情報発信力をつけることで、卒業後も学び続ける姿勢を培います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉 https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
(概要) 医療技術学科臨床検査学専攻は、臨床検査技師として必要な医学的知識および検査術、診断能力を修得し、医療現場において同職種および他職種と協働できる協調性とコミュニケーション能力を備え、国内外の医療現場で活躍する専門職を目指す人を求めます。 1) 総合型選抜 ● 基礎学力確認の結果を基に、基礎学力および学修する姿勢が担保されているかを判断します。同時に、志望理由書や面接、小論文などを通じて、他者を思いやる気持ちや他者と協調して活動する意欲および自らの目標に向かって継続的に学ぼうとする姿勢を多面的かつ総合的に評価・判定します。 2) 学校推薦型選抜 ● 高等学校での活動記録、調査書、志望理由書、面接などを通じて、高等学校での学習への取り組み状況や学校生活で培われた姿勢を多面的かつ総合的に評価・判定します。 3) 一般選抜 ● 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。

〔附記〕

- 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 保健医療学部 救急救命学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 救急救命学科は、日々進歩し続ける病院前救護の変化に対応できる救急救命の専門知識および実践力を身につけ、病院前救護および救急医療に貢献できる質の高い救急救命士を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 救急救命士としての強い使命感と責任感を持つとともに、豊かな人間性と高い倫理観を身につける。 2) 救急救命士として必要な専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、救急現場で活躍できる。 3) 救急活動で必要とされるコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。 4) 地域における救急医療でのさまざまな問題について、専門的な立場から適切な情報提供と対応ができる。 5) 病院前救護のスペシャリストとして常に高度専門技術の向上に努め、研修・研鑽を行う意欲を持つ。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 教育研究上の目的は急速に高度化・専門化する救急の現場に対応でき、さらに、人間性を尊重し、心豊かな医療人として規律をもって活躍できる救急救命士を育成することです。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成します。 1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、救急救命士としての倫理観および職業観を養い、高いモチベーションで学び続ける姿勢およびチーム医療に必要な協働能力を育みます。またスタンダード科目とオプション科目では、個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育みます。 2) 初年次から2年次にかけて学ぶ専門基礎科目を通じて、救急救命士に必要な人体構造や生理、病理など医学分野の基礎学力を育み、さらに2年次以降の専門科目では、救急現場活動や災害システム、救急症候・病態生理、外傷救急の各分野について学びます。 3) 全学年に配当されている実習科目を通じて、救急救命士に必要な技術の修得を目指します。初年次から2年次に行う救急救命処置実習では、救急救命士として必要な観察・処置技術の基礎を、3年次に行う救急救命高度実習では、救急救命士が医師の指示を得て行う医療行為（特定行為）を修得し、4年次の救急救命総合実習では救急現場活動で必用な実践能力を修得します。さらに、学外実習として救急システム実習Ⅰ・Ⅱ（消防署見学、防災訓練参加）、Ⅲ・Ⅳ（救急車同乗実習、病院実習）を通じて救急災害医療に携わる医療関連従事者の役割について学びます。 4) 4年間の学修の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な問題解決力や情報発信力を、さらに就職試験（公務員試験）、国家試験合格に向けた知識・能力を身につけます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉 https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1 、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈 https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1 〉）

(概要) 救急救命学科は、大学の建学の精神に基づき、急速に高度化・専門化する救急現場において、人々の命とウェルビーイングに寄与できる救急救命士の育成を使命としています。 本学科は、その使命を果たすために、医療人としての高い倫理観と思いやりをもって他者と協働する意欲を有し、救急医療の発展に向けて継続的に技術を磨く探究心を備え、緊迫した現場においても規律を重んじ、冷静かつ的確に行動して社会の役に立ちたいという強い志をもつ人を求めます。 1) 総合型選抜 - 志望理由書、面接、および基礎学力の確認等を通じて、人の命を守り社会に貢献したいという強い信念や、規律を重んじ誠実に対話できる対人能力を評価します。また、救急救命士という専門職を目指す上での明確な目標意識と、その実現に向けて継続的に学ぼうとする主体的・探究的な姿勢を多面的・総合的に判定します。 2) 学校推薦型選抜 - 高等学校での活動記録、調査書、推薦書、基礎素養検査、および面接等を通じて、これまでの学習への取り組み状況を評価します。特に、救急救命学の基礎となる自然科学（生物等）の基礎知識を有しているか、また、時間厳守や挨拶といった集団生活における規律を身につけているかを、学校生活での実績に基づき総合的に判定します。 3) 一般選抜 - 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。 〔附記〕 - 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。
--

学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html）
(概要) リハビリテーション学科は、すべての人々の健康と生活向上のために、多様なリハビリテーションの専門知識および技術を備え、問題解決能力と豊かな人間性を持って他職種と協働しながら社会に貢献できる専門職業人（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士）を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/）
(概要) 1) 豊かな人間性と倫理観を備え、あらゆる人々の心と体の回復を支えることを喜びとすることができる。 2) 基礎的な医学の知識を身につけ理学療法士としての診断と治療の技術を修得している。 3) 理学療法に関する知識や技術を社会において応用・発展させる能力を身につけている。 ①社会の様々なニーズに柔軟に対応できる。 ②医療サービス対象者のことを第一に考え、医療チームの一員として他の専門職と協働できる。 4) 地域の健康、医療、福祉に貢献できる能力を備えている。 5) 生涯にわたって学びつづけることで、医療の進歩に対応できる多様なリハビリテーション技術を総合的に提供できるとともに新たな分野を開拓できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/）
(概要) 教育研究上の目的は今後の社会変化や医療技術の進歩にも確実に対応できるような人材を育成することです。具体的には多様なリハビリテーション技術を、幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力を用いて総合的に提供でき、さらに、対象となる人々への深い人間愛や関係職種との協調性など、豊かな人間性を持つ専門職業人を育てます。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成します。 1) 基礎学力の充実

基盤教育科目、基礎医学や関連領域に重点を置くことにより、専門教育科目の修得のための基礎を築きます。またこれらの基礎学力を養うことで自己学修の能力を拡大し、能動的学修習慣を身につけます。 2) 専門教育科目の充実 確固とした基礎学力を基盤に、柔軟な応用力をもった専門職能力を身に付けます。理学療法士としての誇りや喜びを感じられる教育を展開します。 3) 社会に対応できる能力の養成 コミュニケーション能力は医療・福祉において患者や利用者の状況把握や治療・福祉用具の適合のためにも必須であることはもとより、的確なチームアプローチを行うためにおいても重要です。そのため、グループによる学修をチュートリアル教育、および演習、実習等で取り入れ、コミュニケーション能力を高めるとともに能動的な学修習慣を身につけます。また、各専門科目や実習科目において、接遇教育を取り入れ礼儀や挨拶などのコミュニケーションスキルを身につけます。さらに、卒業研究や学外臨床・臨地実習で問題発見能力や解決能力を培います。 4) 協働できる理学療法士の育成を意識した編成 リハビリテーション医療は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー等と協働して行うことにより、はじめて適切なサービスが提供できます。そのため他職種と積極的に連携できる理学療法士となれるよう IPE(専門職連携教育)を配置します。 5) 社会をリードする人材の育成 理学療法士の活躍の場は医療現場だけでなく施設・在宅または広く地域を対象とした保健・福祉活動、また、各種スポーツに対するコンディショニングなどと広がっています。これらの理学療法士に対するニーズに対応できるよう専門領域のみならず広く社会に視野を向け、創造できる人材の育成も目指します。そのために、卒業研究では、広く関連分野の進歩に貢献できるように、地域との交流をはじめ、学部・学科をまたいだ研究室の交流などを図ります。さらに海外研修などを通じて海外との交流を推進します。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
（概要） リハビリテーション学科は、人の「いのち」と「生活活動」を支える専門職として、医学的知識と科学的思考を基盤に、対象者の生活の質（QOL）の向上に貢献できる人材の育成を目指します。そのため本学科では、人の健康や生活、社会参加に関心を持ち、リハビリテーション専門職として社会に貢献したいという意欲を有する人を求めます。また、対象者の尊厳を尊重し、思いやりと倫理観をもって人と関わることができるとともに、医療・保健・福祉分野に関心を持ち主体的に学び続けようとする姿勢を備えた人を求めます。さらに、多職種と協働しながら課題解決に取り組むための協調性とコミュニケーション能力を持ち、科学的根拠に基づいて考え、リハビリテーション科学を探究しようとする意欲を有する人を求めます。 本学科での学修に必要な基礎として、文章を理解し自分の考えを表現するための読解力および表現力、基礎的なコミュニケーション能力を備えていることが望まれます。加えて、自然科学に関する基礎的理解と論理的思考力を有し、主体的に課題に取り組みながら学修を継続する姿勢、他者と協働して活動するための基本的な社会性と協調性を身につけていることを期待します。 1) 総合型選抜 - 志望理由書、学力試験および面接により基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学・障害科学分野の研究者としての明確な志向性と、目標に向かって主体的かつ継続的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや多様な人々と協働して活動しようとする意欲について、多面的・総合的に評価・判定します。 2) 学校推薦型選抜 - 出身学校長の推薦書、調査書、志望理由書、学力試験および面接等により、高等学校における学習成果と基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学分野の研究者として社会に貢献しようとする明確な志向性と主体的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや協調性などの人物面についても、多面的・総合的に評価・判定します。 3) 一般選抜	

• 学力試験により、高等学校教育課程において修得すべき基礎学力（知識・技能）ならびに思考力・判断力・表現力を評価します。 〔附記〕 • 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html） （概要） リハビリテーション学科は、すべての人々の健康と生活向上のために、多様なリハビリテーションの専門知識および技術を備え、問題解決能力と豊かな人間性を持って他職種と協働しながら社会に貢献できる専門職業人（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士）を育成する。 卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/） （概要） 1) 豊かな人間性と倫理観を備え、あらゆる人々の心と体の回復を支えることを喜びとすることができる。 2) 基礎的な医学の知識を身につけ作業療法士としての診断と治療の技術を修得している。 3) 作業療法に関する知識や技術を社会において応用・発展させる能力を身につけている。 ①社会の様々なニーズに柔軟に対応できる。 ②医療サービス対象者のことを第一に考え、医療チームの一員として他の専門職と協働できる。 4) 地域の健康、医療、福祉に貢献できる能力を備えている。 5) 生涯にわたって学びつづけることで、医療の進歩に対応できる多様なリハビリテーション技術を総合的に提供できるとともに新たな分野を開拓できる。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/）
--

(概要) 教育研究上の目的は今後の社会変化や医療技術の進歩にも確実に対応できるような人材を育成することです。具体的には多様なリハビリテーション技術を、幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力を用いて総合的に提供でき、さらに、対象となる人々への深い人間愛や関係職種との協調性など、豊かな人間性を持つ専門職業人を育てます。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成します 1) 基礎学力の充実 基盤教育科目、基礎医学や関連領域に重点を置くことにより、専門教育科目の修得のための基礎を築きます。またこれらの基礎学力を養うことで自己学修の能力を拡大させ、能動的学修習慣を身につけます。 2) 専門教育科目の充実 確固とした基礎学力を基盤に、柔軟な応用力をもった専門職能力を身に付けます。作業療法士としての誇りや喜びを感じられる教育を展開します。 3) 社会に対応できる能力の養成 コミュニケーション能力は医療・福祉において患者や利用者の状況把握や治療・福祉用具の適合のためにも必須であることはもとより、的確なチームアプローチを行うためにおいても重要です。そのため、グループによる学修をチュートリアル教育、および演習、実習等で取り入れ、コミュニケーション能力を高めるとともに能動的な学修習慣を身につけます。また、各専門科目や実習科目において、接遇教育を取り入れ礼儀や挨拶などのコミュニケーションスキルを身につけます。さらに、卒業研究や学外臨床・臨地実習で問題発見能力や解決能力を培います。 4) 協働できる作業療法士の育成を意識した編成 リハビリテーション医療は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネジャー等と協働して行うことにより、はじめて適切なサービスが提供できます。そのため他職種と積極的に連携できる作業療法士となれるよう IPE(専門職連携教育)を配置します。 5) 社会をリードする人材の育成 作業療法士の活躍の場は、保健福祉分野から行政、学校教育など広く多様であり、支援対象も身体障害のみならず、精神障害や発達障害、高次脳機能障害や認知症などと広範囲です。これらの作業療法士に対するニーズに対応できるよう、専門領域のみならず広く社会に視野を向け、創造できる人材の育成も目指します。そのために、卒業研究では、広く関連分野の進歩に貢献できるように、地域との交流をはじめ、学部・学科をまたいだ研究室の交流などを図ります。さらに海外研修などを通じて海外との交流を推進します。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
(概要) リハビリテーション学科は、人の「いのち」と「生活活動」を支える専門職として、医学的知識と科学的思考を基盤に、対象者の生活の質（QOL）の向上に貢献できる人材の育成を目指します。そのため本学科では、人の健康や生活、社会参加に関心を持ち、リハビリテーション専門職として社会に貢献したいという意欲を有する人を求めます。また、対象者の尊厳を尊重し、思いやりと倫理観をもって人と関わることができるとともに、医療・保健・福祉分野に関心を持ち主体的に学び続けようとする姿勢を備えた人を求めます。さらに、多職種と協働しながら課題解決に取り組むための協調性とコミュニケーション能力を持ち、科学的根拠に基づいて考え、リハビリテーション科学を探究しようとする意欲を有する人を求めます。 本学科での学修に必要な基礎として、文章を理解し自分の考えを表現するための読解力および表現力、基礎的なコミュニケーション能力を備えていることが望まれます。加えて、自然科学に関する基礎的理解と論理的思考力を有し、主体的に課題に取り組みながら学修を継続する姿勢、他者と協働して活動するための基本的な社会性と協調性を身につけていることを期待します。 1) 総合型選抜 - 志望理由書、学力試験および面接により基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学・障害科学分野の研究者としての明確な志向性と、目標に向かって主体的かつ継続的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや	

多様な人々と協働して活動しようとする意欲について、多面的・総合的に評価・判定します。 2) 学校推薦型選抜 - 出身学校長の推薦書、調査書、志望理由書、学力試験および面接等により、高等学校における学習成果と基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学分野の研究者として社会に貢献しようとする明確な志向性と主体的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや協調性などの人物面についても、多面的・総合的に評価・判定します。 3) 一般選抜 - 学力試験により、高等学校教育課程において修得すべき基礎学力（知識・技能）ならびに思考力・判断力・表現力を評価します。 〔附記〕 - 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。
--

学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html）
（概要） リハビリテーション学科は、すべての人々の健康と生活向上のために、多様なリハビリテーションの専門知識および技術を備え、問題解決能力と豊かな人間性を持って他職種と協働しながら社会に貢献できる専門職業人（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士）を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/）
（概要） 1) 豊かな人間性と倫理観を備え、あらゆる人々の心と体の回復を支えることを喜びとすることができる。 2) 基礎的な医学の知識を身につけ言語聴覚士としての診断と治療の技術を修得している。 3) 言語聴覚療法に関する知識や技術を社会において応用・発展させる能力を身につけている。 ①社会の様々なニーズに柔軟に対応できる。 ②医療サービス対象者のことを第一に考え、医療チームの一員として他の専門職と協働できる。 4) 地域の健康、医療、福祉に貢献できる能力を備えている。 5) 生涯にわたって学びつづけることで、医療の進歩に対応できる多様なリハビリテーション技術を総合的に提供できるとともに新たな分野を開拓できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/）
（概要） 教育研究上の目的は今後の社会変化や医療技術の進歩にも確実に対応できるような人材を育成することです。具体的には多様なリハビリテーション技術を、幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力を用いて総合的に提供でき、さらに、対象となる人々への深い人間愛や関係職種との協調性など、豊かな人間性を持つ専門職業人を育てます。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成します。 1) 基礎学力の充実 基盤教育科目、基礎医学や関連領域に重点を置くことにより、専門教育科目の修得のための基礎を築きます。また、これらの基礎学力を養うことで自己学修の能力を拡大させ、能動的学修習慣を身につけます。 2) 専門教育科目の充実

確固とした基礎学力を基盤に、柔軟な応用力をもった専門職能力を身に付けます。言語聴覚士としての誇りや喜びを感じられる教育を展開します。

3) 社会に対応できる能力の養成

コミュニケーション能力は医療福祉において患者や利用者の状況把握や治療・指導のために必須であることはもとより、的確なチームアプローチを行うためにも重要です。そのため、グループによる学修をチュートリアル教育、および演習、実習等で取り入れ、コミュニケーション能力を高めるとともに能動的学修習慣を身につけます。また、各専門科目において、接遇教育を取り入れ礼儀や挨拶などのコミュニケーションスキルを身につけます。さらに、卒業研究や学外臨床実習・臨地実習で問題発見能力や解決能力を培います。

4) 協働できる言語聴覚士の育成を意識した編成

リハビリテーション医療は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー等の関連専門職と協働して行うことにより、はじめて適切なサービスを提供できます。そのため他職種と積極的に連携できる言語聴覚療士となれるよう IPE(専門職連携教育)を配置します。

5) 社会をリードする人材の育成

言語聴覚士の活躍の場は、保健医療衛生福祉分野から行政、保育・教育など広く多様であり、支援対象も言語聴覚障害のみならず、摂食・嚥下障害も含んだ広い範囲です。これらの言語聴覚士に対する多様なニーズに対応できるよう専門領域のみならず広く地域社会に視野を向け、未来を創造できる人材の育成を目指します。そのために、卒業研究では、広く関連分野の進歩に貢献できるように、地域との交流をはじめ、学部・学科をまたいだ研究室の交流などを図ります。さらに海外研修などを通じて海外との交流を推進します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈<https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1>〉）

（概要）

リハビリテーション学科は、人の「いのち」と「生活活動」を支える専門職として、医学的知識と科学的思考を基盤に、対象者の生活の質（QOL）の向上に貢献できる人材の育成を目指します。

そのため本学科では、人の健康や生活、社会参加に関心を持ち、リハビリテーション専門職として社会に貢献したいという意欲を有する人を求めます。また、対象者の尊厳を尊重し、思いやりと倫理観をもって人と関わることができるとともに、医療・保健・福祉分野に関心を持ち主体的に学び続けようとする姿勢を備えた人を求めます。さらに、多職種と協働しながら課題解決に取り組むための協調性とコミュニケーション能力を持ち、科学的根拠に基づいて考え、リハビリテーション科学を探究しようとする意欲を有する人を求めます。

本学科での学修に必要な基礎として、文章を理解し自分の考えを表現するための読解力および表現力、基礎的なコミュニケーション能力を備えていることが望まれます。加えて、自然科学に関する基礎的理解と論理的思考力を有し、主体的に課題に取り組みながら学修を継続する姿勢、他者と協働して活動するための基本的な社会性と協調性を身につけていることを期待します。

1) 総合型選抜

- 志望理由書、学力試験および面接により基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学・障害科学分野の研究者としての明確な志向性と、目標に向かって主体的かつ継続的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや多様な人々と協働して活動しようとする意欲について、多面的・総合的に評価・判定します。

2) 学校推薦型選抜

- 出身学校長の推薦書、調査書、志望理由書、学力試験および面接等により、高等学校における学習成果と基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学分野の研究者として社会に貢献しようとする明確な志向性と主体的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや協調性などの人物面についても、多面的・総合的に評価・判定します。

3) 一般選抜

- 学力試験により、高等学校教育課程において修得すべき基礎学力（知識・技能）ならびに思考力・判断力・表現力を評価します。

〔附記〕

- 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 義肢装具学専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） リハビリテーション学科は、すべての人々の健康と生活向上のために、多様なリハビリテーションの専門知識および技術を備え、問題解決能力と豊かな人間性を持って他職種と協働しながら社会に貢献できる専門職業人（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士）を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 命の尊さを大切にするための「医の心」と「ものづくりの技術」を身につけ、利用者のニーズに適確に応える能力を修得している。 2) 基礎的な医学と工学の知識を身につけリハビリテーション支援における課題を科学的、論理的に解決する技術を修得している。 3) リハビリテーション支援に関係するものづくりの技術を中心に、関係する他の専門職者と協力しながら問題を解決できる。 4) 地域の医療、福祉に貢献できる能力を備えている。 5) 生涯にわたり、健康寿命の延伸のために、その時代の社会の必要性に応じて、学んだ知識や技術を応用し発展させる能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）

(概要)

教育研究上の目的は、より長い期間、心豊かに人生を過ごせるよう、すなわち、健康寿命を延伸できるよう、高齢者や障害のある方の生活自立や生活の質の向上を実現するリハビリテーション支援者として、義肢装具や福祉用具、福祉機器等の幅広い知識を有する豊かな人間味あふれる人材を育成することです。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成します。

- 1) リハビリテーション支援者としての豊かな人間性を育む基礎づくり
スタンダード科目およびオプション科目では、その基礎となる豊かな人間性や社会性、あるいは一人一人が率先して学修に取り組む姿勢、さらに、リハビリテーション支援者としてチーム医療に必要な他の専門職技術者と協働する姿勢や能力を修得します。
- 2) “医の心”と“ものづくりの技術”を培う福祉のものづくり研究
専門基礎分野において、人間の身体運動メカニズム、疾病について学び、“医の心”、また、社会制度やリハビリテーション理念を段階を踏んで学修します。さらに、機器や環境を改善するための、実験、測定、分析の重要性を認識するため、ものづくりの基礎となる機械計測や運動機能計測、人間工学、バイオメカニクス学を学修します。
- 3) 課題解決能力の育成
義肢装具士の役割を理解し、義肢装具の種類と適合判定、制作過程で使用する基本材料や工作機器の特徴や使用方法を学びます。さらに義肢装具の種類に合わせて設定した科目により、臨床や研究上での疑問を科学的、論理的に理解し、問題解決する“福祉のものづくり研究”に取り組むための能力を修得します。
- 4) 少人数教育と現場での活躍支援
現場での活躍を見据え、1年次～4年次すべてに臨床経験を積むための実習（見学実習、臨床実習）を設け、一人一人が学内での講義、演習、実習で得た知識、技能等を臨床の場で生かし、義肢装具の実践的な技術を修得します。さらに卒業研究では、4年間の集大成として、今までに修得した理論、専門知識をもとに調査・考察を行い、問題を見つけ、分析し研究論文を作成します。
- 5) 専門分野にとどまらない幅広いニーズに対応
「義肢装具士」の国家資格を有するリハビリテーション支援者として、義肢装具の製作販売会社のみならず、県内の高齢者施設、障害者支援施設、福祉用具製造販売会社、ものづくり企業等で活躍する能力を身につけるため、「義肢装具」に関する知識だけでなく、「福祉用具、福祉機器」「人間工学」「ロボット」等の幅広い知識も学修する医工連携カリキュラムを編成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈<https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1>〉）

(概要)

リハビリテーション学科は、人の「いのち」と「生活活動」を支える専門職として、医学的知識と科学的思考を基盤に、対象者の生活の質（QOL）の向上に貢献できる人材の育成を目指します。そのため本学科では、人の健康や生活、社会参加に関心を持ち、リハビリテーション専門職として社会に貢献したいという意欲を有する人を求めます。また、対象者の尊厳を尊重し、思いやりと倫理観をもって人と関わることができるとともに、医療・保健・福祉分野に関心を持ち主体的に学び続けようとする姿勢を備えた人を求めます。さらに、多職種と協働しながら課題解決に取り組むための協調性とコミュニケーション能力を持ち、科学的根拠に基づいて考え、リハビリテーション科学を探究しようとする意欲を有する人を求めます。

本学科での学修に必要な基礎として、文章を理解し自分の考えを表現するための読解力および表現力、基礎的なコミュニケーション能力を備えていることが望まれます。加えて、自然科学に関する基礎的理解と論理的思考力を有し、主体的に課題に取り組みながら学修を継続する姿勢、他者と協働して活動するための基本的な社会性と協調性を身につけていることを期待します。

- 1) 総合型選抜
 - 志望理由書、学力試験および面接により基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学・障害科学分野の研究者としての明確な志向性と、目標に向かって主体的かつ継続的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや多様な人々と協働して活動しようとする意欲について、多面的・総合的に評価・判定します。
- 2) 学校推薦型選抜

出身学校長の推薦書、調査書、志望理由書、学力試験および面接等により、高等学校における学習成果と基礎学力を確認するとともに、リハビリテーション専門職または健康科学分野の研究者として社会に貢献しようとする明確な志向性と主体的に学修に取り組む姿勢を評価します。あわせて、他者への思いやりや協調性などの人物面についても、多面的・総合的に評価・判定します。
3) 一般選抜
学力試験により、高等学校教育課程において修得すべき基礎学力（知識・技能）ならびに思考力・判断力・表現力を評価します。
〔附記〕
社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 看護学部 看護学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 看護学科は、生命の尊厳と個人の尊重を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、看護の知識・技術を習得し、質の高い看護が展開できるよう、実践力・応用力・判断力を養い、広く社会に貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 人間を取り巻く社会や環境をふまえ、看護の対象となる人々の健康問題をアセスメントする基本的能力を身につけている。 2) 生物的・心理的・社会的存在である人間の健康について、生・老・病・死の各視点で心と体の両面から理解するとともに、人々の尊厳と権利を擁護しつつ援助関係を形成できる。 3) 看護の基本となる姿勢や考え方を理解し、看護の対象者に対する援助の基本的な方法を身につけ、実践できる。 4) 人間の成長・発達や健康課題に応じた、科学的根拠に基づく看護の方法を身につけ、実践できる。 5) 医療や看護に関する知識、技術、実践的態度をより深め、多職種で連携・協働し、総合的な視点から看護を実践できる。 6) 将来にわたって自己研鑽できる能力と自らの考えを発信できる能力を身につけ、看護における課題を見いだして解決し、成果を発表できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）

(概要) 教育研究上の目的は、『生命の尊重と個人の尊厳を基幹とした、人間性豊かな人格の育成である。看護学に関する専門知識と看護技術、看護職者としての態度を修得し、実践力・応用能力・判断力を養い、医療ニーズの高度化・多様化に伴う社会的要請に対して的確に応えられるよう、広い視野と倫理観を養う。そして、健康・医療・福祉に貢献できる能力と研究心を養い、国内外で貢献できる人材を育成する。』です。この目的を達成するために、カリキュラムを編成します。 1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、看護専門職者としての倫理観および職業観を養い、健康・医療・福祉に関わる様々な専門職について学び、チームとして協働することについての理解を深めます。主に1～2年次に学ぶ基盤教育科目では、社会人としての常識や幅広い視野を備え、人間と社会を理解することを目標とします。 2) 主に1～2年次に学ぶ「人体の構造と生理機能」「臨床病態学」などの専門基礎科目では、専門科目の理解に必要な幅広い知識を修得します。 3) 専門科目については、1～2年次に学ぶ基礎看護学系の各科目において、看護職者として必要な基礎的な知識・技術および態度を修得したうえで、2～3年次に学ぶ成人看護学系、老年看護学系、小児看護学系、母性看護学系、精神看護学系および在宅看護学系の各科目において、より高度で専門的な知識と技術を修得します。 4) 3～4年次に学ぶ「看護管理学」「緩和ケア論」「救急看護論」「統合看護学実習」などの統合看護学系の各科目では、医療や看護に対する知識・技術および実践の態度をより深め、広い視点から看護を理解します。 5) 4年間を通じて、「研究方法論」「卒業研究」「看護学総合演習」などの科目では、看護職者に必要な生涯学習・自己研鑽能力、研究的態度および発信力を修得します。 6) 保健師課程は選択制とします。2～4年次に学ぶ「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護学実習」などの科目では、行政・産業・学校などの地域やコミュニティを対象とした公衆衛生看護の知識と技術を修得します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
(概要) 看護学科は、健康・医療・福祉に関心をもち、人々の多様な生き方や思いを大切にしながら看護の基礎的・専門的な知識・技術を修得し、協調性を持って広く社会に貢献したいという意欲をもった人を求めます。 1) 総合型選抜 ● 志望理由書や面接、小論文、基礎学力の確認などを通じて、人の生命や生活への関心、多様な価値観の尊重と他者を思いやり協働する姿勢、ならびに看護の専門職を目指して主体的かつ継続的に学ぼうとする意欲を、多面的・総合的に評価・判定します。 2) 学校推薦型選抜 ● 高等学校での活動記録、調査書、推薦書、基礎素養検査、小論文などを通じ、高等学校での学習への取り組み状況や、学校生活の中で培われた責任感・協調性・主体性、人と関わることへの関心および看護を学ぶ意欲を総合的に評価・判定します。 3) 一般選抜 ● 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。 〔附記〕 ● 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 薬学部 薬学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）

(概要) 薬学科は、「寄りそえる薬剤師の養成」を柱に、専門的知識・技能に加え、科学的思考力・判断力や高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備え、もって広く社会に貢献する薬の専門家を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/）
(概要) 1) 医療人として命の尊厳を理解し、ひとに寄りそえる豊かな人間性と高い倫理観を有している。 2) 薬の専門家として幅広い総合的な知識や技能を身につけるとともに、薬学・医療の進歩のために問題を発見し、科学的視点に基づき解決する能力を有している。 3) 患者の様々な病態や状況に応じ、理論的に裏付けられた最適な薬物療法を実践する能力を有している。 4) 地域および社会における保健・医療・福祉の発展に寄与する意欲と態度を有している。 5) 患者中心の医療を行うために必要なコミュニケーション力を身につけ、チーム医療に貢献する意欲と態度を有している。 6) 生涯にわたり主体的に学び続ける意欲を持ち、次世代の社会に必要な人材を育成する使命感を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/）
(概要) 広島国際大学の教育は「命の尊厳と豊かな人間性」の基本理念の追求に基づいています。薬学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質、能力を身につけるために、6年間を通じて以下に示す全学教育科目および薬学専門科目を体系的に編成し、「次世代の臨床薬剤師の養成」に資する薬学教育を展開します。 【DPに示す資質・能力を身につけるための教育課程編成】 1) 命の尊厳の理解および豊かな人間性と倫理観の育成 命の尊厳の理解や倫理観を身につけるために、全学年を通して倫理・ヒューマニズム教育をMAPLE・薬学専門科目で展開します。さらに、特定の知識に偏らない幅広い教養と豊かな人間性を身につけるために、低学年次から人文・社会・自然科学・国際系・言語系の全学教育科目や薬学英语を配置します。 2) 薬学・医療の進歩のために問題を発見し、科学的視点に基づき解決する能力 薬学に必要な幅広い科学的知識・技能・態度を身につけるために、全学年を通して体系的に専門科目を配置します。さらに、問題を発見し、科学的な視点に基づき解決する能力を身につけるために、能動的な学習を取り入れた演習や実習および卒業研究を配置します。 3) 理論に裏付けられた最適な薬物療法を実践する能力 主体的に薬物療法を実施、評価する能力を身につけるために、病態の理解や、薬物の知識に加え、患者の全人的理解を含めた科目を体系的に配置します。また、医療の高度化に順応するために、最新の知見や手技を取り入れた専門的・実践的な臨床科目を高学年次に配置します。 4) 地域および社会の保健・医療・福祉の発展に寄与する意欲と態度 地域、社会における薬剤師の役割や重要性を理解した上で、地域、社会における保健・医療・福祉における問題点を専門的な視点から解析し、地域医療の向上に貢献する意欲・態度を身につけるために、低学年次より保健・医療・福祉に関する講義・実習を体系的に配置します。 5) 患者中心のチーム医療に必要なコミュニケーション力 患者・家族との対話や多職種との連携を円滑に実施し、職能を最大限に発揮する臨床薬剤師に必要な能力を養成するために、全学年を通じて実務家教員による講義、少人数でグループ討論をする演習・実習を体系的に配置するとともに、複数の医療系学科と共同で学ぶ合同演習科目および全学共通の多職種連携教育科目を配置します。 6) 自己研鑽と次世代の人材育成 日々進歩する医療に対応するために、生涯にわたり主体的に学び続け、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を身につけるために、少人数でグループ討論をする演習・実習を体系的に配置します。さらに、他者と相互理解し、信頼と協力の関係を築く能力を身に付けるために、学生による相互指導や議論、成果発表の機会を取り入れた演習や実習、および卒業研究を配置します。 【学修内容および学修方法】

学修者が主体的に学ぶことに主眼を置き、必要に応じてアクティブラーニング（AL）要素を取り入れた授業を積極的に導入するとともに、自主学修を促し、学修者の成長へつなげます。

【学修成果の評価方法】

各授業における到達目標、学修方略、ならびに学修成果の評価方法は、所定の形式に基づきシラバス上に明記して学修者に周知し、学修成果を厳正に評価します。また、臨床薬剤師としての基礎的な汎用能力や思考力・判断力・表現力や他者と協調してプロダクトを生成する場面においては、行動ルーブリックや自己評価・同僚評価などを活用し、行動・態度を適正に評価します。また、倫理観、プロフェッショナリズム、自己研鑽力などの資質評価では、学修者とアカデミックアドバイザーとの相互連携の下、前期・後期における学修者の自己評価・アカデミックアドバイザーからのフィードバックを含めた省察活動を積み重ね、形成的評価を繰り返すことによって DP 到達度に対応する質を保証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈<https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1>〉）

（概要）

薬学科は、建学の精神および本学の教育理念に基づき、医療・薬学の専門職として人に寄りそい、他者と協働しながら社会に貢献できる薬剤師を養成することを目的としています。そのため、理論に裏付けられた専門的知識・技能と科学的思考力を基盤として、人々や地域のウェルビーイングの向上に寄与できる人材を育成します。

この目的のもと、本学科では、医療や生命科学に関心をもち、人や社会の役に立ちたいという志を有する学生を求めます。また、専門的知識・技能の修得に向けて自ら考え行動し、継続して学び続けようとする姿勢や、他者と協働しようとする意欲を期待します。さらに、自然科学の基礎学力を土台として課題を見だし、科学的に思考し、粘り強く学修に取り組もうとする姿勢を重視します。

本学科では、以下の多様な入学者選抜制度を設け、各選抜の趣旨に応じて、多面的かつ総合的に入学者を評価・選抜します。選抜方法の詳細については、本学科の教育目的および6年制薬学教育の特性を踏まえて、適切に定めます。

1) 総合型選抜

志望理由書、面接、小論文、実技検査、基礎学力の確認などを通じて、以下の点を多面的・総合的に評価・判定します。

- 医療や薬学、生命科学に対する関心と探究心
- 人に寄りそい、他者を思いやる姿勢や、協働して学ぼうとする意欲
- 自らの目標に向かって、自ら考え、継続的に学ぼうとする姿勢
- 自分の考えを日本語で論理的に表現し、他者の意見を理解しようとする態度
- 大学での薬学専門教育に取り組むために必要な基礎的な学力・素養

2) 学校推薦型選抜

高等学校での活動記録、調査書、推薦書、基礎素養検査、面接などを通じて、以下の点を総合的に評価・判定します。

- 高等学校段階における学習への継続的な取り組み状況
- 医療や人の健康に関わる分野への関心と、薬剤師を目指す明確な動機
- 学校生活を通じて培われた協調性や責任感
- 自ら学び続けようとする姿勢および基本的な学習習慣
- 薬学専門教育の基礎となる自然科学および数学に関する基礎的理解

3) 一般選抜

学力試験などを通じて、以下の点を中心に総合的に評価・判定します。

- 薬学を学ぶために必要な自然科学および数学に関する学力
- 数量的、科学的な情報を基に論理的に考える力

〔附記〕

- 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 健康科学部 心理学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html
（概要） 心理学科は、ストレスの多い社会に対し、さまざまな心理学とコミュニケーション技術をもとに、自己や他者のこころに関心を持つ人材、さらに肯定的自己理解と他者への共感的理解を持ちながら、温かい人間関係を構築し、社会の中で生じる課題を創造的に解決できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1）総体としての人間、心の多様性と普遍性、人間と環境との交互作用を客観的に理解し、人間に関する専門職業人として社会貢献することができる。 2）人間を複眼的に見る力、批判的実証的態度、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力など実社会で役立つ汎用技術を修得している。 3）人間の「心のメカニズム」の理解を基礎として、心を理解するための研究スキルおよびコミュニケーションスキルを身に付け、実社会で将来にわたり活躍するための基礎的能力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 日々変動するストレスの多い社会の中で、自己や他者のこころに積極的に関心を持ち、肯定的自己理解を有し、他者に共感的理解を示しながら、温かい人間関係を構築することができ、さらに、個人的だけではなく、人間関係を生かしながら社会の中で生じる課題を創造的に解決していくことのできる人材を育成することが教育目標です。このような自律（自らを尊重し、セルフマネジメントができる）、共感（人を尊重し、こころを理解できる）、協働（人と社会のために、他者とともに行動できる）を旨として、心理学とコミュニケーションの幅広い専門知識と理論および技能の修得と、それを実社会における課題を解決するために活かすことのできる実践的なエキスパートを育成するために、次のようなカリキュラムを編成しています。 1）心理学の専門知識・理論を学ぶ専門科目群、学内の演習・実習、学外実習を系統的に学ぶことができます。 2）コミュニケーションに関する専門知識・理論を学ぶ専門科目群を配置し、学内外の演習・実習を系統的に学ぶことができます。 3）大学院と連携して公認心理師・臨床心理士を目指すための学びを中心に履修するプログラム（臨床心理プログラム）、子ども・子育て支援・健康支援に関する分野についての学びを中心に履修するプログラム（子ども・健康心理プログラム）、ビジネス・社会心理に関する分野についての学びを中心に履修するプログラム（ビジネス・社会心理プログラム）の3つの履修プログラムを用意し、学生自身が目指す進路に即した専門科目を中心に履修することで、心理学の学びの社会的実践の場を意識することができます。 4）専門職種間の連携教育のための関連科目を年次を通して学ぶことができます。 5）ディプロマ・ポリシーの中で専門科目だけでは十分な対応できない国際的多様性や生涯学習について、および専門職種間の連携教育のための関連科目を、幅広い教養科目である基盤教育科目で学ぶことができます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）

(概要) 心理学科は、全学のアドミッション・ポリシーに即し、人々や地域のウェルビーイングに寄与する人材の育成を目的としています。とりわけ、心と体の健康や社会のさまざまな領域における人々の適応に寄与できる人材の育成を目指します。 そのため本学科では、文系・理系を問わず、心理学や人間の行動に興味を持ち、積極的に学修し、学んだことを日常生活や社会の中で活かそうとする意欲を有する人を求めます。また、人を大切に思い、人の役に立ちたいという志を持つ人を求めます。 1) 総合型選抜 - 志望理由書、出身学校の調査書、小論文、個人面接、学科が実施するセミナー等の受講等を通して、他者を思いやる心や他者と協調して活動する意欲、自らの目標に向かって継続的に学ぼうとする姿勢を多面的・総合的に評価・判定します。 - 特に、心理学で学ぶ内容と自身の関心や将来の目標との関連が明確であるかどうかを重視して評価します。 2) 学校推薦型選抜 - 高等学校での活動記録、調査書、推薦書、基礎素養検査、面接などを通じて、高等学校での学修への取り組み状況や学校生活で培われた姿勢を総合的に評価・判定します。 - 特に、言語的な読解力と表現力、自分の考えを適切に相手に伝える力、基礎的な科学に関する知識（人文・社会・自然科学を含む）について、多面的に評価します。 3) 一般選抜 - 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。 〔附記〕 - 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 健康科学部 医療栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
(概要) 医療栄養学科は、人々の健康の維持、病気の予防・改善のため、栄養と食の力を活用し、地域社会の健康・医療・福祉に貢献できる管理栄養士を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
(概要) 1) 管理栄養士としての強い使命感と責任感を持つとともに、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、人々の食生活および栄養状態の改善に貢献できる。 2) 専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけるとともに、現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。 3) 運動する全ての人々に対する栄養サポートの知識と技能を身につけ、科学的根拠に基づいた情報発信を行い人々の体力・運動能力の向上に寄与できる。 4) 地域社会のさまざまな問題について、専門的な立場から食と栄養に関する適切な情報提供と対応ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）

(概要)

『食と栄養』を科学的に学び、『食と栄養の力』で健康の維持・増進、体力・運動能力の向上、および病気の予防・改善を図る管理栄養士の養成を目指すとともに、既存学部における健康・医療・福祉分野での教育・実習の実績を活かしながら、他学部・他学科あるいは地域社会と連携したカリキュラムを展開することで、高度な専門的知識や技能のみならず、高い倫理観を備えた豊かな人間性を持った「管理栄養士」の養成を実現します。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成します。

1) 管理栄養士育成に向けた基盤教育科目および専門教育への導入を目的とする基礎教育

基盤教育科目では個々の豊かな人間性を育み、さらに入学早期から専門職としての管理栄養士に対する意識付け教育を実践します。この分野では「早期体験学習」で実際の現場を体験しながら管理栄養士としての心構えを学び、さらに、早期から多職種との専門職連携教育（IPE）をカリキュラムに配置することでコミュニケーション能力を養いながら管理栄養士の役割と他の職種を理解する力を育みます。

2) 管理栄養士としての知識と技能を育成する専門教育

専門的な知識の十分な理解を図るため、専門基礎分野に「生化学」「生化学実験」の科目により有機化学の理解を深めるとともに「病態学」「病態生理学実習」を配置し、病態に対する理解を深める工夫をしています。また、高齢化、疾病の複雑化・重症化が進行する中、薬の知識や介護・福祉の知識を取り入れた管理栄養士教育が必要となっているところから、専門応用分野では、「栄養薬学」や「臨床栄養学各論」「臨床栄養学実習」において医療、福祉、介護の現場に対応した教育内容とすることで、在宅まで含めた社会的ニーズに対応できる質の高い管理栄養士教育をめざします。

さらに、人々の体力・運動能力の向上に寄与するなど、栄養サポートを担うことが可能な管理栄養士を養成するために「スポーツ栄養サポート論」や「スポーツ栄養マネジメント演習」「スポーツ医学概論」の科目を配置し、スポーツの現場において特に身体活動量が多い人をサポートできる教育を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈<https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1>〉）

(概要)

医療栄養学科は、「食と栄養」に関する専門的な知識と技能を基盤として、健康の維持・増進、体力・運動能力の向上、疾病の予防および改善に寄与し、地域社会のウェルビーイングの向上に貢献できる管理栄養士の育成を目的としています。

そのため本学科では、食と栄養に関心を持ち、専門的知識の修得に意欲を有するとともに、医療、スポーツ、福祉、企業などの幅広い分野において人々の健康に貢献したいという志をもつ人を求めます。

また、本学科での学修に必要な基礎として、文章の内容を的確に理解し論理的に表現する力、基礎的な数的処理能力および自然科学に関する基礎的理解、ならびに人の健康を願う真摯な姿勢と他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を備えていることが望まれます。

1) 総合型選抜

- オープンセミナーへの積極的な参加や志望理由書、小論文、基礎学力の確認などを通じて、他者への思いやりや他者との協調性、自らの目標に向かって継続的に学ぼうとする姿勢等を多面的・総合的に評価・判定します。選抜方法の詳細は、学科の教育目的や特性に応じて適切に定めます。

2) 学校推薦型選抜

- 高等学校での活動記録、調査書、推薦書、基礎素養検査、面接などを通じ、高等学校での学習への取り組み状況や学校生活で培われた姿勢を総合的に評価・判定します。

3) 一般選抜

- 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。

〔附記〕

- 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。

学部等名 健康科学部 医療経営学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html
（概要） 医療経営学科は、健康・医療分野に深く関わる経営学、経済学、医学、情報学等の実践的な学びを通して、高い倫理観を持ちながら、効率的で質の高い健康・医療サービスの提供をもって、人々のしあわせをマネジメントできる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 地域の人々のしあわせに貢献できる。 2) 医療マインドと高い倫理性を持つ。 3) 医療専門職や地域と連携し、医療機関を管理運営、サポートできる。 4) 経営学、経済学、医学、情報学の基礎を理解し、医療経営手法を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 教育研究上の目的は、医療マインドと高い倫理性を持ちながら、社会的価値を高める経営手法を修得し、広い視野から医療に関わる事業組織の運営に貢献する人材を育成することです。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成します。 1) 専門教育科目の充実 医療経営を修得するためには、医療の特殊性を踏まえ、ヒト、モノ、カネ、情報のマネジメントを学修する必要があります。このため、経営学・経済学系科目、医療・医学系科目、情報学系科目をバランスよく配置し、多様な専門領域を効果的に学修できるカリキュラムを編成しています。 2) 少人数教育の充実 各学年に少人数による演習科目を必修科目として配置しています。とりわけ3年次の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」では、少人数グループによる演習を通じ、医療経営に関わる多様な問題をテーマに、議論、調査、討論などを行い、問題を発見する力、解決する力を修得します。4年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では、医療経営を修得した集大成として、その成果を論文にまとめます。 3) 実践的な演習・実習科目の充実 医療施設における最新の管理手法を学ぶために、実際の医療施設の情報システムを基にしたシミュレーションを行うなど現場に即した実践的な演習科目を数多く配置しています。 また、医療施設や医療関連企業など、現場へのフィールドワークを実施する実習・演習科目を配置しています。講義科目で学んだ知識を実践する感覚と能力を修得します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉 https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1 、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈 https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1 〉）
（概要） 医療経営学科は「経営・医療・情報分野の実践的な学びを通してマネジメント能力を高め、献身的に地域社会のウェルビーイングに貢献できる人材を育成する」ことを使命としています。 そのため本学科では、ビジネスや地域社会の課題に関心を持ち、社会や組織の仕組みについて学ぼうとする意欲を有する人を求めます。また、他者と協働しながら課題解決に取り組もうとする姿勢を持ち、主体的に学び続けようとする意欲を持つ人を求めます。 1) 総合型選抜 - 志望理由書や面接、小論文、基礎学力の確認などを通じて、地域社会で他者と協力して行動をすることに喜びを感じ、自分の強みを見つけてそれを活かし、何事にもチャレンジす

る姿勢を多面的・総合的に評価・判定します。選抜方法の詳細は、学科の教育目的や特性に応じて適切に定めます。 ● ビジネス分野に対する関心や学修意欲、自らの目標に向かって主体的に学び続けるような姿勢を重視して評価します。 2) 学校推薦型選抜 ● 高等学校での活動記録、調査書、推薦書、基礎素養検査、面接などを通じ、高等学校での学修への取り組み状況や学校生活で培われた姿勢を総合的に評価・判定します。 ● あわせて、地域社会に関心を持ち他者と協働して活動しようとする姿勢、および大学でビジネス分野を学ぶために必要な基礎的な学力が身についているかを確認します。 3) 一般選抜 ● 基礎学力および論理的に考える力を備え、大学での専門的学修に意欲をもつ人を対象に、学力試験などを実施し、その成果に基づいて入学者を総合的に評価・判定します。 〔附記〕 ● 社会人、帰国生徒、外国人留学生等を対象とする入学者選抜については、各学部・学科の教育目的や特性に応じて個別に実施します。これらの選抜においても、本学の基本方針に基づき、多面的かつ総合的な評価・判定を行います。
--

学部等名 健康科学部 社会学科 地域創生学専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 社会学科は、地域共生社会の実現を目指して、地域の持続的な発展を推進する施策を展開する自治体・企業等との連携により、社会課題の解決を図り、地域やそこで暮らす人々のしあわせな未来像を描き提案できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 命の尊厳を理解し、豊かな人間性と倫理観を有している。 2) コミュニケーション力、チームワーク・リーダーシップ、課題発見力、計画実行力、自己管理能力、社会人としての常識を身につけている。 3) 現代社会、社会福祉の根本的な理論を身につけている。 4) データサイエンス、社会調査の基礎理論、地域社会の多様な人材・事業体をつなぐマネジメントの理論・手法、多様な自己表現、プレゼンテーション手法を身につけている。 5) 時代とともに変化する地域課題に対応し、生涯にわたり主体的に学び続け、次世代を拓く意欲と態度を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 本学の教育は「命の尊厳と豊かな人間性」の基本理念の追求に基づいています。多様化・複雑化・国際化する時代において、地域社会を取り巻く様々な問題や課題に取り組むことができる専門職業人を育成するため、社会学の学びを基盤として、地域創生学に関する専門的な知識・技術・態度の修得を通じた基本理念の追求を教育研究上の目的とし、その達成のために以下のカリキュラムを編成します。それぞれの教育科目については、各分野において適切な学修方法と学修資源を選択します。また、学修の評価についてはアセスメント・ポリシーに記す方針に従い、採用した学修方略に対応する適切な評価方法を選択します。 1) 職業人としての教養と広い視野を育成する基盤教育科目 命の尊厳の理解をはかり、豊かな人間性と倫理観を育成するとともに、自主的に課題発見、探求する姿勢を育むため、基盤教育科目を配置します。 2) 実践力を育成する専門職連携教育、フィールドワーク教育 コミュニケーション力、チームワーク・リーダーシップ、課題発見力、計画実行力、自己管理能力、

社会人としての常識を身に付けるため、地域連携型フィールドワーク教育および専門職連携教育を配置し実践的な学びを展開します。 3) 現代社会、社会福祉の基礎を身に付ける専門基礎科目 現代社会、社会福祉の根本的な理論について学ぶため、専門基礎科目を配置します。 4) 協働、問題解決に係る基礎を学ぶ専門科目 データサイエンス、社会調査の基礎理論、地域社会の多様な人材・事業体をつなぐマネジメントの理論・手法、多様な自己表現、プレゼンテーション手法について学ぶため、専門科目を配置します。 5) 自主性、自律性を育む関連科目 時代とともに変化する地域課題に対応し、生涯にわたり主体的に学び続け、次世代を拓く意欲と態度を身につけるため、生涯学習やキャリア形成、フィールドワーク等の学修を配置します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
（概要） 建学の精神、教育に関する基本方針、ディプロマ・ポリシーを理解し、自分とのかかわりのある地域の課題を解決し、活性化することに興味があり、探求心をもって学び、学んだことを実践する意欲のある人で、ひとを大切に思い、地域の役に立ちたい人を歓迎します。 入学前に修得が望まれる知識・力 ● 地域やそこで暮らす人々の幸福を願い、課題の解決に取り組む姿勢。 ● 社会の動きに関心を持ち、情報を収集する力。 ● 文章を的確に理解し、論理的な構成に基づいて文章の作成ができる力。 ● 数的に情報を処理する基本的な力。

学部等名 健康科学部 社会学科 社会福祉学専攻
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html）
（概要） 社会学科は、地域共生社会の実現を目指して、地域の持続的な発展を推進する施策を展開する自治体・企業等との連携により、社会課題の解決を図り、地域やそこで暮らす人々のしあわせな未来像を描き提案できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/）
（概要） 1) 社会課題の解決のために社会学および社会福祉学の基礎理論にもとづき情報収集・分析する能力を有している。 2) 「フィールドワーク」をはじめとする実践的な学修を通じて培った協働する力、コーディネートする力、企画・運営する実践力、プレゼンテーションする力を有している。 3) 地域やそこで暮らす人々の生活に根ざした地域共生社会の実現のために、ソーシャルワーカーとして専門的な知識や技能を有している。 4) 生涯において、自らの実践を省察し、分析することを通して自己研鑽に努め、社会の発展のために寄与できる姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/）

(概要) 地域共生社会の実現のために、地域やそこで暮らす人々のしあわせな未来像を描き、その人らしい生活づくりを支援することができる人材の育成を目指し、社会学および社会福祉学の学びを基盤に、福祉マインドを醸成し、地域生活課題の解決のために情報収集・分析する力、多様な人々や団体・関係機関等と協働しコーディネートする力、解決プランを企画・推進する実践力を養うために、段階的、重層的に学ぶ学修カリキュラムを配置します。 1) 基礎学力の充実 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、社会福祉士・精神保健福祉士としての倫理観および職業観を養い、多職種連携に必要な協働する力を育みます。基盤教育科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育みます。 2) 社会課題の解決のための力の育成 専門基礎科目では、「社会学と社会システム」「社会福祉の原理と政策」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの理論と方法」において社会学および社会福祉学の基礎理論について学びます。 3) 実践的な学修を通じて培う力の育成 全学年を通して段階的、重層的に学修する「フィールドワーク」では、地域の人々や関係機関等との協働を通して、生活の質の向上、人々のネットワーク化を通して地域生活課題の解決を図るために必要な専門的な知識・スキルである関係形成力、コミュニケーション力、アセスメント力、計画・企画・実践力に加え、デザイン力やコーディネート力、プレゼンテーション力を醸成します。 4) 専門教育科目の充実 全学年に配当されている専門科目では、社会福祉、精神保健福祉に必要とされる基本的知識を修得するとともに、社会福祉、精神保健福祉の各分野に必要とされる専門知識・スキルを学びます。さらに、演習、実習において実践に必要なスキルを身につけ、各現場実習を通じて実践する力および社会福祉専門職としての人間性を醸成します。 5) 自己研鑽と、社会の発展のために寄与できる姿勢の育成 4年間の集大成としての「卒業研究」では、専門職業として、また、さまざまな現場で活躍する人材として必要な問題分析力、論理的思考力、情報発信力を身につけます。また、生涯にわたり、自らの実践を省察し、分析することを通して自己研鑽に努め、社会の発展のために寄与できる姿勢を育みます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法：電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
(概要) 地域共生社会の実現のために、地域やそこで暮らす人々のしあわせな未来像を描き、他者と協働を図りながら地域生活課題の解決しようとする人材を歓迎します。 入学前に修得が望まれる知識・力 ● 人を思いやり共感できる力 ● 文章を適切に読解する力 ● 自分の考えや思いを表現する力 ● 他者と協力し社会に貢献する意欲を持つ者

学部等名 健康科学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻（2024 年度募集停止）
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html）
(概要) 医療福祉学科は、地域社会の一員として、他者とともに協働しながら、あらゆるひとの自己実現と社会参加を促進し、誰もがしあわせになる社会づくりに貢献できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1）社会福祉に関する価値、知識、援助技術を修得している。 2）豊かな人間性を土台に、専門的な学びを深めながら、さまざまな生活上の問題を抱えた人びとの支援および地域社会に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 社会福祉学の学びを基盤として、医療福祉学・精神保健福祉学に関する専門的知識・技術・態度の修得を教育研究上の目的とし、その達成のために以下のカリキュラムを編成します。 1）初年次から始まる専門職連携教育を通じて、社会福祉士・精神保健福祉士としての倫理観および職業観を養い、多職種連携に必要な協働能力を育みます。スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育みます。 2）専門基礎科目では、現代社会と福祉において社会福祉の根本理論について学びます。 3）全学年に配当されている専門科目では、社会福祉、精神保健福祉に必要とされる基本的知識を修得するとともに、社会福祉、精神保健福祉の各分野に必要とされる専門知識を学びます。さらに、社会福祉援助技術演習、精神保健福祉援助演習において実践のための技術を身につけ、各現場実習を通じて実践能力と社会福祉専門職としての人間性を育みます。 4）広く福祉マインドを持ったひとの育成を目的として、福祉の学びを活かし福祉教育に従事する力を養います。 5）4年間の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な問題分析能力、論理的思考能力、情報発信能力を身につけます。
入学者の受入れに関する方針
（概要） ※募集停止

学部等名 健康科学部 医療福祉学科 介護福祉学専攻（2024 年度募集停止）
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 医療福祉学科は、地域社会の一員として、他者とともに協働しながら、あらゆるひとの自己実現と社会参加を促進し、誰もがしあわせになる社会づくりに貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1）利用者の生活状況を的確に把握し、根拠に基づいた個別の生活支援ができる。 2）豊かな人間性を土台に、専門的な学びを深めながら、介護福祉専門職として利用者の「尊厳と自立を支えるケア」が実践できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）

(概要) 社会福祉学の学びを基盤として、介護福祉学に関する専門的知識・技術・態度の修得を教育研究上の目的とし、その達成のために以下のカリキュラムを編成します。 1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、多職種連携の意味を理解し、チームアプローチを実践するための豊かな人間性と対話力を身につけます。スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育みます。 2) 専門職連携教育や専門科目を通して、自らの専門職としての価値や位置づけを理解し専門的知識、技術を身につけます。 3) 介護福祉を必要とする人々の暮らしの場において提供される多様な介護サービスを知り専門職として求められる実践力を理解し学びます。 4) 広く福祉マインドを持ったひとの育成を目的として、福祉の学びを活かし福祉教育に従事する力を養います。 5) 4年間の集大成としての卒業論文において、専門職業人として介護福祉の視点を多角的に学び問題意識と解決能力をつけます。
入学者の受入れに関する方針
(概要) ※募集停止

学部等名 健康科学部 医療福祉学科 保育福祉学専攻 (2024 年度募集停止)
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html)
(概要) 医療福祉学科は、地域社会の一員として、他者とともに協働しながら、あらゆるひとの自己実現と社会参加を促進し、誰もがしがあわせになる社会づくりに貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/)
(概要) 1) 子どもをとりまく環境を深く理解し、子どもの最善の利益を考えた支援ができる。 2) 豊かな人間性を土台に、専門的な学びを深めながら、保護者や地域と連携した「子育て・子育て・親育ち・地育ち」支援ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/)
(概要) 社会福祉学の学びを基盤として、保育福祉学に関する専門的知識・技術の修得を教育研究上の目的とし、その達成のために以下のカリキュラムを編成します。 1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、多職種連携の意味を理解し、実践するための専門的知識・技術を身につけます。スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育みます。 2) 自らの子ども観、保育観、福祉観を養うために、演習・実習を通して、体験的に学びます。 3) 子どもをめぐる社会状況を多角的・構造的にとらえ、ソーシャルワークの視点に立った専門的知識・技術を身につけます。 4) 広く福祉マインドを持ったひとの育成を目的として、福祉の学びを活かし福祉教育に従事する力を養います。 5) 4年間の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な問題分析力、論理的思考、問題解決力を培います。
入学者の受入れに関する方針
(概要) ※募集停止

学部等名 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/basic_policy.html ）
（概要） 健康スポーツ学科は、あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康・運動・体育・スポーツに関する知識や技術をもとに、幅広い分野で貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/diploma_p/ ）
（概要） 1) 健康・運動・体育・スポーツの専門家としての使命感と責任感を持ち、ひとを思いやる豊かな人間性を身につけている。 2) 健康・運動・体育・スポーツに関する専門的知識や技能をもって、あらゆる人々の各ライフステージ（各年齢期）における健康で豊かな生活に貢献できる。 3) 専門的知識や技能を発揮する場において、他者と協力し様々な問題をチームとして解決することができる。 4) 地域社会において健康・運動・体育・スポーツに関するさまざまな情報を専門的立場から提供できる。 5) 研修や講習等を通じて、健康・運動・体育・スポーツに関する専門的知識や技術の向上に努めることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/curriculum_p/ ）
（概要） 教育研究上の目的は、社会の状況に応じた健康・運動・体育・スポーツ分野における専門的な知識や技能を提供し、豊かな人間性と協調性を有し、関連する専門職と連携・協力して問題を解決できる力を高めることのできる人材を育成することです。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成します。 1) 基礎学修力の充実 大学での学修の仕方や大学生として必要な基礎的学修能力を1年次より開講される基盤教育科目を中心に身につけていきます。また、友人達とのコミュニケーションを通して大学生としての生活態度や心構えを養っていきます。 2) 専門基礎・専門科目の充実 保健体育教員、健康運動指導士など多岐にわたる免許・資格取得のための専門基礎科目と専門科目の学修を通して専門的能力の修得を目指します。また、専門職連携教育(IPE)関連科目を学修することによって専門分野に幅広く貢献する能力を身につけることができます。 3) 演習・実習科目の充実 健康・運動・体育・スポーツを専門とする職業人においては、専門的知識や技術の修得のみならずその知識や技術を実際の行為として提供していくことが重要になってきます。そのためにグループによる演習、実習等を通じて現場に役立つ実践力、問題解決能力を身につけていきます。また、免許・資格試験に向けた学力を培っていきます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ〈アドミッション・ポリシー〉https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/admission_p.html#ac1、入学者選抜要項、入試ガイド ※入手方法:電話〈TEL 0823-70-4500〉・HP〈https://entry.s-axol.jp/hirokoku-u/step1?ef=1〉）
（概要） 健康・運動・体育・スポーツに関する専門的な知識と技術の修得を目指し、社会の様々な環境において協調性と意欲を持って人と接することのできる人を歓迎します。 入学前に修得が望まれる知識・力 ● 健康・運動・体育・スポーツについて興味・関心を持ち、意欲を持って取り組む姿勢。 ● 積極的に他者と協力し、物事に関わる力。 ● 基本的な読解力と表現力。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ

<https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/purpose.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
保健医療学部	－	17 人	15 人	10 人	3 人	0 人	45 人
総合リハビリテーション学部		11 人	9 人	11 人	3 人	0 人	34 人
健康科学部		30 人	18 人	11 人	3 人	4 人	66 人
健康スポーツ学部		5 人	4 人	3 人	1 人	0 人	13 人
看護学部		7 人	8 人	8 人	6 人	7 人	36 人
薬学部		14 人	10 人	12 人	5 人	0 人	41 人
大学院		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
その他	－	1 人	1 人	0 人	2 人	0 人	4 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		164 人					164 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.hirokoku-u.ac.jp/research/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保健医療学部	220 人	210 人	95.5%	880 人	770 人	87.5%	－人	－人
総合リハビリテーション学部	180 人	182 人	101.1%	720 人	692 人	96.1%	－人	－人
心理学部	－人	－人	－%	－人	1 人	－%	－人	－人
健康科学部	350 人	286 人	81.7%	1400 人	1014 人	72.4%	－人	－人
健康スポーツ学部	70 人	79 人	112.9%	280 人	320 人	114.3%	－人	－人
看護学部	120 人	134 人	111.7%	500 人	470 人	94.0%	10 人	0 人
薬学部	120 人	87 人	72.5%	720 人	486 人	67.5%	－人	－人
医療栄養学部	－人	－人	－%	－人	1 人	－%	－人	－人
合計	1060 人	978 人	92.3%	4500 人	3754 人	83.4%	10 人	0 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保健医療学部	202 人 (100%)	2 人 (1.0%)	160 人 (79.2%)	40 人 (19.8%)
総合リハビリテーション学部	154 人 (100%)	7 人 (4.6%)	139 人 (90.3%)	8 人 (5.2%)
健康科学部	235 人 (100%)	7 人 (3.0%)	215 人 (91.5%)	13 人 (5.5%)
健康スポーツ学部	66 人 (100%)	2 人 (3.0%)	63 人 (95.5%)	1 人 (1.5%)
看護学部	113 人 (100%)	5 人 (4.4%)	107 人 (94.7%)	1 人 (0.9%)
薬学部	88 人 (100%)	1 人 (1.1%)	59 人 (67.1%)	28 人 (31.8%)
合計	858 人 (100%)	24 人 (2.8%)	743 人 (86.6%)	91 人 (10.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を毎年授業担当教員が作成し、第三者(学科長等)による内容確認の上、3月末日に次年度のシラバスを大学のホームページに公表している。学生へは履修ガイダンスにて周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) すべての学部において学生に学位を授与するに当たり、学生が卒業までに修得すべき資質や能力を含めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めており、ホームページにて公表している。具体的な認定については、教授会にて修得単位数を基に卒業判定を行っている。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
保健医療学部	診療放射線学科	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療技術学科 臨床工学専攻	132 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療技術学科 臨床検査学専攻	136 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	救急救命学科	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
総合リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
看護	看護学科	125 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
薬	薬学科	186 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
健康科学部	心理学科	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療栄養学科 (2024 年度以降入学者)	127 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療栄養学科 (2023 年度以前入学者)	125 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療経営学科	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療福祉学科 医療福祉学専攻	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療福祉学科 介護福祉学専攻	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	医療福祉学科 保育福祉学専攻	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	社会学科 地域創生学専攻	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
	社会学科 社会福祉学専攻	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
健康スポーツ学部	健康スポーツ学科	124 単位	④・無	半期ごとに 24 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：履修申請要領に記載し、新入生に配付するとともに、大学HPに掲載する。 https://www.hirokoku-u.ac.jp/student/course/course_application.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/facility/index.html>
<https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/facility/campus.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

【2026 年度入学者】 ※その他（教育充実費）については、1 年次の徴収額

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
保健医療学部	診療放射線学科	1,430,000 円	250,000 円	210,000 円	教育充実費：90,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
	医療技術学科				
	救急救命学科				
総合リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	1,430,000 円		210,000 円	教育充実費：90,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
看護学部	看護学科	1,430,000 円		210,000 円	教育充実費：90,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
薬学部	薬学科	1,720,000 円		220,000 円	教育充実費：100,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
健康科学部	心理学科	1,030,000 円		170,000 円	教育充実費：50,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
	医療経営学科				
	社会学科			210,000 円	教育充実費：90,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
	医療栄養学科				
健康スポーツ学部	健康スポーツ学科	1,030,000 円		210,000 円	教育充実費：90,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円

【2020～2025 年度入学者】 ※その他（教育充実費）については、2 年次以降の徴収額

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
保健医療学部	診療放射線学科	1,430,000 円	— 円	320,000 円	教育充実費：200,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
	医療技術学科				
	救急救命学科				
総合リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	1,430,000 円		320,000 円	教育充実費：200,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
看護学部	看護学科	1,430,000 円		320,000 円	教育充実費：200,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
薬学部	薬学科	1,720,000 円		360,000 円	教育充実費：240,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
健康科学部	心理学科	1,030,000 円		270,000 円	教育充実費：150,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
	医療経営学科				
	社会学科			320,000 円	教育充実費：200,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円
	医療福祉学科				
	医療栄養学科				
健康スポーツ学部	健康スポーツ学科	1,030,000 円		320,000 円	教育充実費：200,000 円 在籍料（休学時）：120,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

本学では、教育活動の向上を推進し、学生の教育を全面的に支援することを目的として、「基盤教育センター」を設置しており、様々な講座、学修相談や個別指導などの学生へのサポートを行っている。基礎学力の補強を行うことで大学における学修に対する安心感を与え、一人ひとりの能力の開花を促進し、本学の学生が自信をもって幅広い学修に取り組める

よう支援をしている。

また、正課における教育と正課外における教育を通じた、学修成果・教育成果の把握と可視化を行い、思い描いた未来と、今の学びの関係性を整理し自ら必要な学びを検討するためのサポートシステムとして「学修成果可視化システム（Assessmentor）」を活用している。本システムを活用し、学修計画と振り返り、履修した科目の到達目標に対する自己評価やディプロマ・ポリシー達成度の診断を行う。自らの学修状況を振り返り、目標達成度についてアカデミック・アドバイザーを中心とした教員との面談を通して、次につなげている。

このような学びと振り返りのサイクルで、思い描いた未来へたどり着くためにサポートしている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

- 学生の進路を支援するキャリア支援係では、学生の進路相談に個別対応するとともに、就職活動に関する相談・助言を行い、低年次からのガイダンスを継続的に実施することで、段階的な進路支援を行っている。
- 各学部・学科の専攻内容に応じ、業界研究会、合同説明会、採用担当者による説明会、筆記試験対策講座、エントリーシート対策講座、模擬面接、就職情報サイト説明会、エクステンション講座の開講、卒業年次生による就職活動体験報告会等を行っている。就職活動に必要な身だしなみ講座については、女子学生向けに加え男子学生向けの内容も取り入れるなど、時代や学生ニーズに応じて実施している。なお、一部のプログラムではオンラインも活用し、学生が参加しやすい体制を整えている。
- 求人情報や説明会情報については、メール配信および学内専用の情報配信システム（広国ポータルサイト）への掲載に加え、学内掲示板やキャリア支援係事務室内での配架を併用し、幅広く周知している。
- 企業（病院・施設）説明会や採用試験への参加を目的とした学園宿泊施設の利用に際しては、学生の経済的負担軽減を図るため、低料金で宿泊できるよう支援している。
- 本学が推奨する資格試験に合格した学生に対し奨励金を支給し、資格取得を積極的に奨励・支援している。
- 既卒者に対しても、希望に応じて履歴書添削や求人情報の提供など、継続的な就職支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

各キャンパスにカウンセラーを配置し体制を整えている。また電話・Webで行うメンタルヘルスカウンセリングサービスもあわせて開設し、相談体制を充実させている。障がい学生に対して個々に面談を行い、授業・生活上等の配慮を希望する学生に対しても支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F134310109955
学校名（〇〇大学 等）	広島国際大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 常翔学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		984 人（ 642 ）人	959 人（ 625 ）人	1015 人（ 666 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	239 人	234 人	
	（うち多子世帯）	（ 55 人）	（ 51 人）	
	第Ⅱ区分	119 人	123 人	
	（うち多子世帯）	（ 30 人）	（ 31 人）	
	第Ⅲ区分	93 人	77 人	
	（うち多子世帯）	（ 24 人）	（ 18 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	133 人	114 人	
	区分外（多子世帯）	400 人	411 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－ 人（ 0 ）人
合計（年間）				1018人（ 666 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	26 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	- 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	人	人
計	31 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0 人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0 人
訓告	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	- 人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0 人	人	人
GPA等が下位4分の1	54 人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0 人	人	人
計	54 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。